

北極圏鉄道紀行 (7)

フィヨルドにさしかかった列車は、ナルビクに向かって、どんどん標高を下げてゆきます。



乗客は皆、フィヨルド側の窓にひっついて、大騒ぎしながら、車窓景観を楽しんでいます。



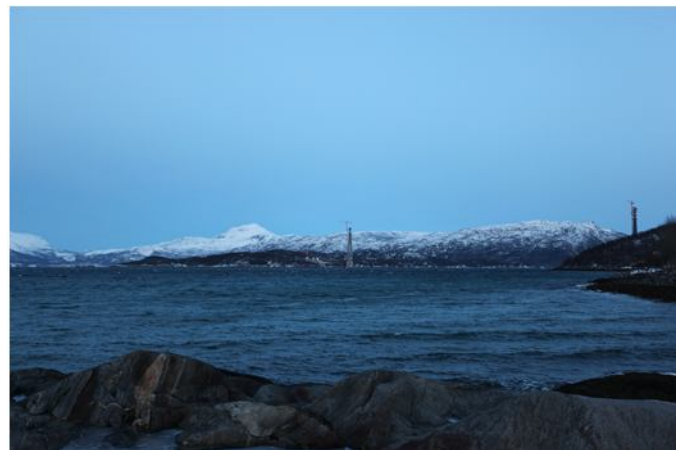
フィヨルドの狭小部に、つり橋がかかっているのが見えます。私は、自動車でこの橋を何度もわたりました。この橋がないと、道はフィヨルドの最奥部まで迂回することになるのです。こうした橋が、次々と造られて、便利になっています。(下; 2003年夏撮影)



これが吊り橋の上から見たフィヨルドの景観です。「山の中の海」ということを、実感できます。鉄道は、中腹の線の部分にあります。(上; 2003年夏撮影)



終着ナルビク駅に到着しました。ストックホルムからは約 20 時間の長旅。ここで折り返し列車まで、約 3 時間の遊覧時間があります。



駅から歩いて行ける海。暖流の影響で、北極圏にあって、この海は凍ることがありません。非常に変化に富んだ景観を楽しめた汽車旅でした。